

令和5年度神奈川県立小田原支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度神奈川県立小田原支援学校第1回学校運営協議会	
開催日時	令和5年5月24日(金) 10:00~12:00	
開催場所	神奈川県立小田原支援学校 応接室	
出席者	委員8名 事務局8名	
次回開催予定日	令和5年8月28日(月) 10:00~12:00	
問合せ先	小田原支援学校湯河原校舎 副校長 鈴木 電話 0465-60-1800(直通) FAX 0465-60-1805 本校(小田原校舎) 電話 0465-37-2758(直通) FAX 0465-37-5356	
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由
審議(会議)経過	<p>会場参加及びZOOMによるオンライン参加のハイブリット開催 出席委員 会場参加:3名、オンライン参加:4名</p> <p>1 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長をさせていただきます。まだ寒暖差に気を付けなくてははいけません、爽やかな陽気の中、今年度初めての協議会を始めます。 <p>2 校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度校名変更がありました。この学校は昭和53年に開校し、46年目を迎えました。関係者・保護者の御協力があり、学校力を高めてきました。令和3年9月湯河原校舎が誕生し、三つの学びの場で子どもたちが持てる力を発揮し、一人ひとりが輝く学びの場をめざしています。新型コロナウイルス感染症の影響で3年間制限がありましたが5類に移行し、マスクは個人の判断に委ねられますが、外せても多くは着用して対面しているのが現状です。 ・令和2年から5年度にかけての学校のミッションはまとめの時期です。文部科学省の指定による人的交流による研究では、小田原支援学校から足柄小学校に派遣し、来年度から再来年にかけてインクルーシブ教育実践により共生社会を推進し、校内研究を進めていきます。大井高校が城北工業高校に令和8年度に移ることが確実ですが、大井分教室は今の場所で継続していきます。建物の管理等、教育局内で検討し、課題を一つひとつクリアしていきます。子どもたちが自信をもって元気に楽しい学び 	

に繋げていけるよう、新しく委員をされる方、引き続き委員をお願いする方々には忌憚ない御意見を申し上げます。

3 委嘱（任命）式

- ・学校運営協議会委員（出席者）に任命書、委嘱状を交付

4 令和5年度学校運営協議会運営計画について

- ・構成メンバー
- ・組織体制
- ・実施日程（全4回）

●学校評価部会

○グランドデザイン<ホームページ参照>

- ・目標達成に向けた主な方策
- ・三つの学びの場が一体となった学校運営の実施
- ・教育課程の改善・適切な編成及び専門性の向上と継承
- ・コミュニティ・スクールの運営、地域連携、切れ目ない支援の充実、地域防災・校内防災の充実
- ・不祥事防止会議・研修の実施と意識付け、事務処理の効率等による働き方改革の推進
- ・文部科学省に係る研究の推進

○学校教育計画 <ホームページ参照>

- ・4年間のまとめの年

○4年間の目標と主な方策 <ホームページ参照>

- ・教育課程・学習指導
- ・児童・生徒指導・支援
- ・進路指導・支援
- ・地域等との協働
- ・学校管理 学校運営

○学校評価報告書 <ホームページ参照>

- ・アンケートの結果や御意見を反映しています。

○各学部教育目標

- ・ホームページ等をご覧ください。

○各校務グループより

- ・教務部：教育課程の見直しに取り組んでいます。
- ・管理部：保健・給食・防犯等の各種マニュアル作成、施設等、地域との連携、プールの安全な再開、オンライン等、情報に関する研修を行い、より良い学習環境をめざします。
- ・指導部：研究係では、個別教育計画の新書式を含め、校内研究等

を通して課題を整理し、学習指導へ反映させます。医療的ケア係では関係諸機関とも連携し、環境を整え安全な支援を行います。特体連係では安全な部活動の実施をします。またコロナ予防対策を緩和し、熱中症対策をしながら活動します。児童生徒指導係では、各種マニュアルの改善と周知、訓練を実施して、児童生徒の安全と健康を守り、教育環境の整備を推進していきます。

- ・支援連携部：各関係機関と連携します。シチズンシップ教育の充実を図ります。校内外で専門職と教育相談コーディネーターが学部と連携します。人事交流による研究を行い、新たなセンター的機能のあり方を探ります。地域学校との連携を図ります。ボランティア利用や各学部の学校間交流を推進します。支援連携だより「だよりん」の発行にあたり、支援連携部各係から編集員を出し、より広い視野の内容を掲載していきます。

- ・総務部：会計係では公正な会計処理を実施します。給食事務係では組織的な事務処理体制を整え、会計事故を防ぎます。スクールバス係では、安心、安全な運行ができるようにします。また、高等部の通学支援を引き続き行っていきます。

5 学校の状況について

- ・卒業生の進路先：一般企業（ドラックストア、ファミレス、清掃関連企業）、特例子会社、福祉事業所（A・B型、生活介護）など。

- ・SNS上のトラブルがみられており、ケータイ安全教室を実施する等して指導支援しています。

- ・医療的ケアを含む生活介護の進路先が少なく、週の中で事業所を分けて利用する方もおられます。

- ・新入学生は、少しずつ登校がスムーズになり、学校生活にも慣れてきました。本校中学部と地域の中学校から入学してこられた生徒が、高等部で一緒に学習し、賑やかで楽しそうに学習しています。高等部では校内実習も始まりますが、この時季は疲れもみられてきています。

- ・医療的ケアの引継ぎについては、スムーズに行われているところです。

6 学校および児童生徒の活動の様子～学校ホームページより～

- ・高A チャレンジ走

- ・高B 泉中学校との交流授業「ボッチャ」

- ・大井分教室 修学旅行2泊3日（三重・愛知方面）
- ・湯河原校舎 幕山公園「梅の宴」
- ・ブラックライト体験
- ・給食週間 世界の料理・日本の料理
- ・支援連携だより（インクルーシブ教育、医療的ケア、湯河原社会福祉協議会・UMECOでの作品展示）
- ・産業現場等における実習（お願い）

◎校長より補足情報：小中高合わせて258名、職員148名、事務含めて職員全体220名、教職員の欠員もあります。県の配置が2名、実習助手、産育休の補填等、大学にも話をもっていています。県立高校でも欠員が出ています。

<意見交換>

- ・ブラックライト体験について、外部への開放は可能かどうか。
⇒担当者と相談しておきます。
- ・給食週間の取り組みが良い。海外の食事を当施設でも行ったことがあり、職員利用者共に新鮮であった。重度や医療的ケアのある子どもたちにとっても、においなどで感じる事ができ、いろいろな子どもたちに配慮をされていることと思う。
⇒小田原校舎と湯河原校舎それぞれで給食週間を行いました。普段とは違うメニューに盛り上がって喜んでいました。栄養士が食堂前の廊下にディスプレイし、高等部の生徒がメニューをみて楽しんでいました。
- ・ICT機器を活用した視線入力、重度の障害がある方への支援について、意見交換させてもらいたい。
- ・地域の学校の先生が、特別支援学級の児童生徒が増え、支援に困っている。実態や特性に応じたクラス運営や教室環境（雨天時の余暇や休憩場所）が整えられるとよい。地域できちんと学習し、居場所がもてるように引き続き頑張っていく。
- ・コロナが2類から5類になり、進路指導や事業所見学、実習先として協力したい。
- ・学習発表会での地域の交流についてはどうか。
- ・SNSトラブルは、ここ近年事業所でもあった。学校で取り組んでいることやこれから取り組むことを教えてほしい。
⇒SNSの授業では動画教材を使って指導しています。実際の使用に結びついているか検証しながら、コツコツと少しずつ指導し

ていきます。

- ・今年度も学習発表会を行います。規模としては各学部の保護者が参観します。時期的にコロナが流行るかもしれないので、係で検討していきます。
- ・地域の小中学校で新しい学校づくり、インクルーシブを進めていくにあたり、バリアフリーに課題がある。築年数や統廃合の課題もある。実際に支援学校を見学すると良い。地域で進めるにあたっては、専門の人がいないと実現できない。オール小田原、関係部署が集まらないといけない。学校の中の様子を見学する機会があればお願いしたい。
- ・就職後の状況が、ある程度追跡して分かった方が良い。就職して終わりではない。子どもが安心できると良い。
⇒アフターフォローについては、夏に担当が見に行ったりケース会を開いたりすることもある。進路支援では自分に合った場所や将来の設計を考えるようにして、アフターフォローでは地域と連携して支援していきます。
- ・PTA活動を整えながら行っていく。プールを楽しみにしている。レクリエーション等、少しずつ楽しい行事も増え、PTAからも予算の協力ができると良い。

会長

- ・年間目標や学校の様子について具体的な説明があった。子どもたちの声が聞こえ、日常が戻ってきたことが感じられて嬉しく思う。話を伺う中で、意見を出すことで運営に協力していきたい。小中人事交流、教員定数のある授業、児童生徒に対する教員定数が、小中学校で改善されている。教員定数の欠員は県全体のことではあるが、次の世代を育てていくセンター的な役割を担っていく学校として成果を上げていく。新たな活動を掘り起こし、楽しいことを紹介して頑張っているのだから、人員を確保してほしい。

●部会会議

○切れ目ない支援部会

- ・足柄小学校での様々な支援について
- ・関係機関との情報共有について
- ・医療的ケア受入れ、特別支援教育の積み上げの課題について
- ・支援級担任への特性理解を進めるために

○防災部会（管理部長 堀之内）＜部会記録を参照＞

- ・湯河原校舎の防災設備について
- ・地域防災について
- ・小田原市と顔合わせ
- ・地域を含めた避難訓練について
- ・校内、避難の方法の改善について

●まとめ

校長：掘り下げていただいた御意見を生かしていきます。今後も忌憚ない御意見をよろしく願います。ありがとうございました。

会長：時間が足りないくらい活発な時間になった。次回8月28日の全体会及び各部会では、その後の進展状況を踏まえ、新たな意見交換ができると良い。

◆切れ目ない支援部会

○足柄小学校との人的交流による研究の紹介をした。

- ・足柄小学校には、通級指導教室「ふれんど」、特別支援級、通常級とあり、様々な支援が行われている。小田原支援学校と情報交換をすることにより、よりよい支援に活かせるのではないかと期待している。今後どのような展開になるのか、聞かせてほしい。
- ・教育機関のみでなく、地域の関係機関にも情報共有の機会があるとよい。オンタイムで広がっていければ。地域の小中学校では、先生が変わると同じ医療的ケアのある子どもでも、受け入れ態勢が変わってしまったりする。特別支援教育が積みあがっていないことによるのだろう。
- ・小学校の支援級の先生たちは特性について理解が足りていないと感じることがある。ほうあんなぎざは当初は幼児のための機関だったが、小学生の相談が半数以上である。授業についていけず不登校になり来所することが多い。支援級と通常級の連携が取れていないのではないか。通常級の先生も障がいに対する理解が必要。ぜひ特別支援学校の先生から伝えてほしい。
⇒センター的機能の取り組みのひとつとして、学校全体での研修を兼ねた巡回相談を勧めている。現在行っている市町もあることを伝える

◆防災部会

○湯河原校舎について

- ・軽油による非常用電源がある（2日分）
- ・太陽光パネル昨年設置、防災に対応できる。
- ・防災センター、町民体育館が隣にあり、第一次避難所となる。位置的に恵まれている。
- ・人工呼吸器のフィリップ社と情報交換。非常時、蓄電池は家から持ってくる。

○情報交換・意見交換

- ・協定を結んでいないと使いにくい。地震だけでなく、集中豪雨も多い。富水小学校と泉中学校にはエレベーターがあるので福祉避難所として活用できる。電気を確保するのが問題。川に監視カメラを設置し、川の状態を監視する。
- ・いろいろと早めに対応したいが、小田原市は地域に押し付けるだけで、遅々として進まず。富士山の災害マップも地域に配付してほしい。
- ・地域・教員・小田原市で防災訓練が行えないか？以前の学校では行ったことがある。小田原支援学校も検討していく。防災担当と会って、具体的な話ができるとうい。避難してくる人用の防災食等はない。
- ・B部門の避難グッズがA部門でも必要かもしれない。慣れない災害で体が動かなくなってしまうこともある。見慣れない地域の人が避難してくると、ざわついた雰囲気なり、児童・生徒が余計に不安になってしまわないか心配。
- ・まとめ・・・できることを検討し、行っていく。まずは小田原市の防災担当と会うことが必要。